

## 今日のジャーナリズム

### メディアをめぐる生活史という視座

田中正隆 (高千穂大学人間科学部)

本報告は民主化以降のベナンにおけるメディア、とくにラジオ放送の現状を紹介し、そこに表れる社会情勢について考察する。メディアとは、広く人々の間で情報のやり取りをするための媒体であり、テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアをさす。半世紀のあいだに実に100倍にも浸透したラジオをとおしてアフリカ文化は幅広く放送され、また放送文化からアフリカはさまざまな影響をうけてきた。だが、とくに地域社会での調査に基づいたメディア研究は、十分な蓄積があるとはいえない。従来の西欧社会を中心としたメディア研究から、脱-西欧化する議論が近年にいたってようやく端緒についたのが現状である[アジア経済研究所 1995]。本報告はこうした問題意識から地域の生活にもっとも根づいているメディアとして、ラジオに重点をおく。

今日、携帯端末、テレビやインターネットが普及する都市部だけでなく、小型トランジスタラジオからの音楽が村落に流れるほど、マスメディアは浸透している。にもかかわらず、放送がとりもつ空間として、記者自身や視聴層の生活の場への視座は欠けていた。従来は、各地域のメディア事情を、インフラ事情や教育、報道倫理といったマクロな社会的問題のコメントにつなげる作業にとどまっておき、メディアをめぐる人々の実情が今一つ見えてこない。そこで本報告ではメディアの担い手であるジャーナリストに焦点をあて、彼らの語りからベナンの社会、政治情勢を探ってみたい。この作業は、単に輸入されたテクノロジーや機材としてメディアを捉えるのではなく、人々の生活の場としてメディアを捉えることになる[小池 2003、川田 2005]。メディアが埋め込まれた生活史や社会史を探究する展望が拓けてくる。

ベナンでは第一次大戦時から植民地政府批判の情報誌が出され、二次大戦後にはダホメ人の視点で語る新聞が発刊された。それが教育や選挙、政治を語る場となり、ダホメ最初の政党UPDの地盤となる。フランス支配体制期から始まったラジオ放送は植民地経営の情報を流していたが、1972年の政変からは革命政権の支持をよびかけるものとなった。やがて、1990年民主化以降、政治を語る民営新聞が現れ、ラジオ、テレビも視聴者のニーズに合わせた複数民族語での放送、地域の情報や音楽番組を提供するようになる。そして1997年以降、放送網の開放(=自由化)が施行されたことから、多くの民営放送が開局し、現在に到っている[田中 2009]。このようなメディアの地域史をふまえて、本報告では具体的にジャーナリストの生活史を辿ってみる。

ゴメス氏は国営ラジオ放送の記者兼アナウンサーを務める。彼はベナン大学法学部卒業後、研修機関をへて2000年度から記者として勤務する。一時新聞報道の報道官を務めつつ現職を続けている。大卒後、研修をうけて国営放送勤務という彼は、一見順調なキャリアを積んでいるように思われる。だが、局の経営上から限定的な人員で賄わなくてはならないため、複数のパートを兼務する内情がある。業務の兼任や多忙さは大多数のジャーナリストが抱える問題で彼らの生活を圧迫している。

カルロス氏は、民営放送の記者、コメンテーターとしても活躍し、ベナンでもっとも信頼されているジャーナリストだ。歴史教師だった彼は70年代には地元タブロイド紙への執筆、編集に携わった。1980年代からセネガル、フランスをはじめ20年間の海外生活を経験し、コートディヴォワールで週刊紙イヴォワールディマンシュの記者として活躍する。同紙が1990年休刊すると、民主化後、ケレク政権に替わり、改革継続がなされる時、ベナンに帰国した。そして、1997年の放送電波開放時、いち早く許認可を通過させ、自己資金でCAPP FMを開局。この局は放送をとおして、政治的、経済的にも苦境がつづくアフリカ人を啓蒙し、エンパワーしてゆこうとする。とくに文化芸術活動の支援に力をいれており、同局敷地内での音楽、ダンス・グループのコンサートや新人発掘のためのオーディションを開催している。文化的発展の支援こそがアフリカを真の自立へと導くというのが彼の主張だ。

このように個性的なジャーナリストの人生を追うことから、ベナンのジャーナリズムの現在を浮かび上げさせる。あわせて、民主化初期を支えたアクターが世代交代を迎える今後における、社会階層間の継承という問題にも言及したい。

#### 【参考文献】

- アジア経済研究所編 [1995] 『第三世界のマスメディア』 明石書店  
川田牧人[2005] 「聞くことによる参加」 『電子メディアを飼いならす』 飯田、原編、せりか書房  
小池誠 [2003] 「ジャワ村落社会のテレビ視聴者 メディア人類学の試み」 『国際文化論集』 27  
田中正隆 [2009] 『神をつくる - ベナン南西部におけるフェティッシュ・人・近代の民族誌』 世界思想社